

# 協定留学体験記

- 留学先大学 : 高麗大学
- 留学期間 : 2020年2月～2020年12月
- 学部・学科 : 人文学部 日本・東アジア文化学科
- 留学時の学年 : 3年

私は韓国の高麗大学に交換留学生として1年間留学をしました。留学前武蔵大学では、1年生の時からGSCの授業を受講し韓国語を学び、「現代韓国論」や「韓国朝鮮の社会と文化」等、韓国・朝鮮系の授業を受講していました。しかし自身の韓国語には自信もあまりなく、韓国で問題なく生活することができるか心配でした。



留学前に新型コロナウイルスが中国を発生源として発現しました。その影響で高麗大学の授業開講日は、3月1日だったのが約2週間後に延期され、韓国への出国も遅らせることになりました。私が韓国へ入国した2月末の段階ではソウルも東京でもまだ感染者が少なく、それほど流行していない、という段階でした。しかし私の韓国入国から1か月後の3月末頃には日韓両国で新型コロナウイルスの感染が拡大し、日韓を行き来することも難しい環境になりました。新型コロナウイルス感染予防のために、高麗大学ではオンラインでの授業が開始されました。オンライン授業では、対面で授業を受ける以上に言語の壁を感じました。専門的な単語を韓国語で教えられるため、初期は授業内容を理解するのに必死でした。オンラインではオフラインでの授業以上に授業の雰囲気をつかむのが難しかったです。私は教授側と学生側で授業内容を問題なく理解しているのか、というコミュニケーションをとるのが難しいのがオンライン授業の短所の1つだと考えますが、それが更に韓国語となると、理解できない部分も多く、助けてくれる友人もいなかったため1人で行わなければいけないのがとても大変でした。

4月になり少し授業に慣れた頃、日本人の友人に誘われて日韓交流会に参加しました。キャンパスに通うことができ、大学内で友人を作っていたら参加することのない場だったと思いますが、今年度の環境では友人作りさえできなかつた為、参加する運びになりました。結果的に私の留学生活の友人の大半はこの日韓交流会で出会う友人たちになりました。

日韓交流会に参加した後からは、交流会で出会った、同い年の韓国人の女の子2人と、日本人の女の子1人と私の計4人で遊ぶことが増えました。週末は大抵彼女たちとカフェで勉強をしながら、日本語、韓国語交えて会話をし、ご飯を食べて過ごしました。彼女たちの存在がなければ、新型コロナウイルスで心配なこともたくさんあったので、恐らく日本へ帰国し、日本でのオンライン授業受講を選択していたのではないかと、思います。授業で理解できない部分がある場合には韓国人の友人たちの助けを受けながら受講し、課題を提出し、生活を送っていました。また彼女たちの日本語を学ぼうとする姿勢に感化されて私の韓国語を学ぶ意識も常に上がり、また能力自体も向上したと思います。韓国人の友人1人とは夏季休暇を利用して釜山へ旅行にも行きました。

彼女たちとの交流を通して、言語が完璧でなくても人と人が通じ合えるということをもっと体感することができました。私が日本人の女の子と雰囲気が悪くなった時に、韓国人の友人が私のつたない韓国語で話を全て聞いて私の代わりに涙してくれたり、誰にも話したことの無いお互いの将来について語りあったり、国籍は関係ない、ということを経験することで改めて感じるようになりました。

私の通っていた高校は、済州島にある高校と交流がありました。その為夏季休暇には、その時の友人たちに会うという目的も兼ねて済州島と全州へ旅行に行きました。私が大学で韓国について学ぼうと思ったきっかけは高校生の頃に彼女たちと出会ったのが大きな理由でした。彼女たちとの出会いをきっかけに私は韓国留学もすることになったため、彼女たちと韓国で再会できるのはとても感慨深いものでした。私は常々、自分の韓国語を勉強する理由の1つとして彼女たちの存在を挙げていました。彼女たちに、過去良くしてもらったことの感謝を伝える一番の方法は自分が韓国語を上達させることだと考えているため、彼女たちにこの留学生活の中で韓国語が上達したと言ってもらえたことは自分の大きな自信に繋がりました。

2学期以降は新型コロナウイルスの感染者増加により、ソウル内で制限が多くなりました。その結果友人たちと沢山会うことが難しくなり、家で過ごす時間が増えました。

私は留学期間シェアハウスで生活をしていました。私のいた期間で1番少ない頃は4人、多い時には7人で生活をしました。私のハウスメイトは全員女性でしたが、国籍や年齢、職業は様々でした。会話は英語、及び韓国語で行われていました。

私はこのコロナの生活の中でシェアハウスでの生活を選んで本当に良かったと思っています。何故ならもしも1人で生活していた場合、家から出ることもできず、会話をする機会もないため、それがストレスになっていたのではないかと想像するからです。また、国籍や職業が様々なため、知らない文化を知ることができたのも私の留学生活において大きな経験の1つになりました。もちろん共同生活を送る中で掃除をしない、夜に音がうるさい、などの問題も生じましたが、それを含め、互いを思いやりながら生活する気持ちを改めて感じる事ができたので良い経験になりました。

大学では「文化」に関する授業を多く受講しました。韓国、日本の文化を中心に他の国と比較もしながら学びました。

どの講義もとても興味深いものでしたが、その中でも特に興味深かったのは「日韓異文化コミュニケーション」の授業です。この授業では主に「日本の文化」について再考しました。例えば、日本では曖昧な表現を多用するとよく言われますが、本当にそうなのか、そうだとすればなぜ多用するのか、どのような曖昧表現が使用されているのか、などを考えました。また、外国人が日本で経験した文化間の問題について自身の考えを提示した上で、受講している韓国人の学生と意見を交換しました。意見を交換する中で日本人と韓国人の間で感覚の違いがあることも分かり、とても興味深かったです。

今年度は授業が全てオンラインで行われ、前期の試験の時のみ学校に通いました。そのため、高麗大学の学生との交流がほとんどないのが学校生活における惜しい点でした。しかし、学生との交流がほとんど無いからこそ自分で何とかしようとする、解決方法を考える力を身に着けることが出来ました。また、自ら積極的に動いて友人や助けになってくれるような存在を作る努力を日本にいたときの何倍も頑張ったと思います。

韓国留学生活の中で私は、自立心、協調力、積極性を身に着けることができたと思います。家族と離れて生活することは初めてでした。家族の存在の大きさを感じつつ、自分で解決する自立心を身に着けることが出来たと思います。

シェアハウスでの生活では、協調性を身に着けることが出来ました。国籍も性格も様々な友人たちと生活するので問題もありましたが、臨機応変に対応し、日本にいた時よりも更に、協調性を身に着けることができたと思います。

また自分から動かなければ何もできない生活になりかねなかったのも、あえて様々な人と積極的に関わるようにし、積極性を身に着けました。

制限の多い中でも有意義な生活を送ることが出来たと思います。